



## 今月の話題

- UNESCO/IPRED ペルー(リマ)会合出席
- 関西方面研修旅行レポート
- 2013年予定表

## 研修データベース

IIEE NET (地震防災技術情報ネット)

IIEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## UNESCO/IPRED ペルー(リマ)会合に出席

国際地震工学センター長 横井 俊明

CISMID(ペルー日本地震防災センター)主催、UNESCO、IIEE の支援により、IPRED (建築・住宅地震防災国際ネットワーク)の第6回会合が、2013年6月4日から7日まで、ペルー、リマのペルー国立工科大学内 CISMID で開催されます。また、同開催地において、UNESCO-IPRED ワークショップ、“Preparing Ourselves for Future Earthquakes”(未来に起こり得る地震への備え)が同時開催されます。

参加予定者は、近年世界で起こった大地震(2013年イラン、2011年日本、2010年チリ・ハイチ)について地域社会の安全性、公共建築物及び住宅の安全性(建築基準法)を含め考察した結果について議論する予定です。また、新しい技術やテクニック、震災後調査、そして IPRED 計画に基づくその他の活動についても議論される予定です。

CISMID 主催による Pisco の地震多発地域への実地調査も予定されております。建築研究所からは、国際地震工学センターの鹿嶋主任研究員と私が参加します。

## 関西方面研修旅行レポート

(1)チコ バクチ ムリア ウィラディカータ(インドネシア、地震学コース)



2013年4月8日~12日の期間で実施された関西地区(神戸、大阪、淡路島)への研修旅行は、IIEE 研修の中でも、忘れることのできない、素晴らしい経験となりました。中でも、1995年に起こり、破壊的な影響を与えた阪神・淡路大震災(M7.2)について学び、実際にその地域を見学する事ができたことは、よい経験となりました。震源地は淡路島の北部、神戸から20キロほど離れたところでした。周辺地域の地震被害も多大でした。今回の研修旅行を通して、地震発生後の災害マネジメントに関して、日本の人々が再建に向けてどれだけ努力をしたのかということを知ることができました。

研修旅行に参加し、日本の災害マネジメントについて多くの知識を身につけることができたので、インドネシアに戻り、その知識を活かしてインドネシアの災害マネジメントの改善に寄与できればと思います。

このような素晴らしい機会を与えて下さった IIEE に感謝しています。

## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

### (2) ペトロニア グアダルペ フロレス アエリデス (ニカラグア、地震学コース)



2013年4月8日～12日まで、研修旅行として地震学コースと地震工学コースのメンバーで、関西地方(神戸、大阪、兵庫の淡路島)を訪れました。研修には、阪神・淡路大震災記念、人と防災未来センター、神戸港震災メモリアルパーク、神戸地方合同庁舎、アジア防災センターへの訪問が含まれていました。

また、橋の科学館と野島断層保存館へも訪れました。今回の研修の主な目的は上記の場所で起こった阪神・淡路大地震によるダメージを、自分の目で見て確かめること、そして震災後のマネジメント政策、災害の鎮静と回復について学ぶことでした。私は今回の研修を通して、地震後の緊急時の措置、地元、政府、コミュニティやその他機関の相互協力について学びました。

また、全ての日本の市町村の参加を巻き込むような復興計画、将来的な災害対応策についても学ぶことができました。

### (3) ワイ ピョウ リン (ミャンマー、地震工学コース)



今回の研修旅行は、大変心に残るものとなりました。私たちは、研修旅行の中で、17世紀初頭に建設された世界遺産の姫路城の改修工事現場、世界最長のつり橋である明石海峡大橋、世界最大の振動台を有する神戸のEーディフェンス実験施設、有名な野島断層と野島断層保存館などを訪問しました。

実は、私自身、地震を経験したことが無いのですが、今回の研修を通して、1995年、神戸でどれほどの地震が起こったのか、その後減災や街の復興がどのように成し遂げられたのか、はっきりとしたイメージを持つこと

ができました。今回のような研修旅行は、減災を学ぶ上で必要不可欠なものであったと言えます。また、日本の文化や技術を学ぶ大変良い機会でした。

IISEE、BRI、JICA、そして日本の人々に感謝を申し上げます。

### (4) ピナール コカック (トルコ、地震工学コース)



今回の関西地方への研修旅行は、大変素晴らしく、価値ある経験となりました。私のみならず、研修員全てが感じていることですが、今回の研修は、地震が及ぼす交通網の麻痺や火事などの被害について学ぶ絶好の機会でした。

また、阪神・淡路大震災の直後に倒壊した建物の下敷きになった人々の搜索活動などについての説明を聞き、被害地域についての認識を高めることができました。

研修旅行の後、自分で国で起こる可能性のある地震や地震の被害についてより



責任を感じるようになりました。

(5)フレック マーチン ケレーフ (パフアニューギニア、津波コース)



楽しみは、今です。



私達、2012-13年 IISEE 津波コースが、復興しつつある東北地方の太平洋岸ではなく南の関西方面に向かったのは、東北地方太平洋沖地震・津波の発生から、丁度 2 年 1 カ月後のことでした。研修旅行の一ヶ月前にいった長野県松代の地震計測トンネルの中で、私たちは、地震の起こった3月11日14時46分に日本の皆様と同じように津波の被害者の皆方を思い1分間の黙禱を行いました。

今回の研修旅行は 3 日間だけでしたが、日本の人々が事前に予想し、事態に備えていた「東海・東南海・南海連動型地震」の調査結果や多くの科学者の調査内

容を汲み取ることができたと感じています。今回の研修で特に感銘を受けたことと言えば沼津港大型展望水門「びゅうお」を含めた静岡県ハード面での対策であり、人口減少の著しい静岡に人を戻すために、津波防止策を打ち出したという事実です。

海面下に位置する大阪西部にある町の人々は、海岸沿いや沖に設置されたハード面での対応策に自分たちの安全を委ねています。

1854 年に津波から村民の命を守り、その後も和歌山県の広川町に津波対策の堤防を築いたとされる浜口梧陵がモデルとなった物語「稲むらの火」が、語り手や聞き手により後世に伝えられ、物語に迫真性を与えています。

過去の被害を反映させた今日の技術を見ると、日本は津波や地震に対しての整備が整っていると言えると思います。

津波予想や警告は、津波が起こる 3 分前に国民に知らされるシステムとなっており、護岸、防波堤の建設、高性能マッピングソフトウェアと世代を問わない人々への教育への熱意が、強い社会を築くための環境を創造しています。この素晴らしい経験により、様々なことを学ぶ機会を得ることができました。

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp  
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは  
下記をご覧下さい。

http://iisee.kenken.go.jp/nldb/

## 2013 年間予定表



中庭で花見

6 月 1 日 個人研修開始

7 月 18 日-19 日 中間発表

8 月 22 日-23 日 最終発表

9 月 13 日 IISEE 閉講式

9 月 17 日 GRIPS 卒業式

9 月 18 日 帰国

# 2013年 関西研修旅行



野島断層保存館



明石海峡



大阪津波高潮ステーション